

「極箔事業」を本格化

最薄2マイクロメートルの高機能金属箔を量産

電子・医療部品の小型化などに対応

電子部品・医療機器用部品などにおける小型化の追求を背景に、極薄金属箔に対するニーズが世界的に高まりつつある。こうした状況を捉えて、特殊金属エクセル（本社・東京都豊島区、社長COO・水谷徳次郎氏）は、埼玉事業所（埼玉県比企郡ときがわ町）で最薄2ミクロンの高機能極薄金属箔の量産対応を開始した。最薄2ミクロンの極薄金属箔帯を生産できる圧延メーカーは世界に数えるほどしかない。同社は2025年から「極箔事業」を本格化し、量産体制の拡充に向けて各種付帯設備の段階的導入を進める。

電子部品・医療・歪みゲージ関連の部品の小型化、軽量化、低背化などのニーズを背景に、世界から引き合いが寄せられている。今後は極箔事業を「オリジナリティ50」（独自製品売上高比率50％）戦略の軸の一つに据えて強化する。

一般に板厚0.1ミ（100ミ）未満の材料を指して箔と呼ぶ。同社はこれまで最薄10ミの金属箔を生産してきた。22年に専用圧延機を導入して長年培ったノウハウと融合し、「極箔」（10ミ未満）の量産準備や事

などに貢献する。2ミより薄くても、金属箔を求められれば、可能性を見極めていく方針。25年から極箔事業をする。25年は既受注分の生産を行いながら自社の技術的課題やユーザーニーズを突き詰める。26年以降に品質向上で圧延ロールの非接触計測システムや極細圧延ロール研磨機を導入し、生産性改善で巻替え装置や焼鈍・切断・脱脂設備の導入する。とともに専用圧延機の改造・増設も検討する。

